

【資料1】「先行事例分析資料①」

H21 P90	H23 P86	H25 P149	H28 P62	H30 P24	H30 P85	R3 P57	R4 P14	R4 P39	8県1市 精選項目
<p>【基礎編】 □特別支援教育とは □特別支援教育の体制整備 □特科として身に付けた 力 □特科の役割 □特科の取組の実態 【実践編】(Q&Aで説明) □特別支援教育等の理解啓発 □特別な支援が必要な子どもの実態把握 □校内委員会 □ケース会議 □個別の教育支援計画 □保護者との連携 □関係機関との連携 【資料編】 □障がいについての基本的な知識 □個別の指導計画の書き方 □子どもと教師のための実態把握シート □特別支援教育に関する校内支援体制チェックリスト □相談窓口 □特別支援教育に関する通知等一覧 □保護者相談申込用紙(例) □実態把握・支援チェック表 □特別支援教育だより(例) □引用・参考文献</p>	<p>I 特別支援教育コーディネーターとは 1 特別支援教育コーディネーターの基本的役割 2 特別支援教育コーディネーターとして身に付けた力 II 実態把握について 1 実態把握の目的 2 実態把握を行う際のポイント 3 特別な教育的支援の必要性に気付くためのポイント 4 心理検査の活用 III 校(園)内の支援体制づくり 1 校(園)内における支援体制をつくる上で大切なこと 2 校(園)内委員会について 3 地区CO会議について 4 個別の教育支援計画、個別の指導計画について 5 ケース会議について 6 校(園)内における指導・支援のステップ 7 特別支援教育の視点を取り入れた学校(園)の評価 IV 保護者との連携 1 保護者との連携の必要性 2 保護者への理解・啓発 3 保護者との教育相談の進め方 4 保護者の苦悩を軽減するための V 関係機関との連携 1 連携についての基本的な考え方 2 主な関係機関 3 地域関係機関連携マップの作成 4 関係機関と連携する際の配慮事項 VI 切れ目のない連携 1 保育所・幼稚園などから小学校へ 2 小学校から中学校へ 3 中学校から高等学校へ 4 高等学校卒業後に向けた連携 VII 特別支援教育支援員が活躍できるために 1 特別支援教育支援員の役割 2 特別支援教育支援員に対する研修 3 特別支援教育支援員が活動しやすくなるための配慮事項 VIII 心理検査について 1 田中ビネー知能検査 V について 2 WISC-IV 知能検査について 【資料編】 I 実態把握の方法 II ケース会議の技法 III 「特別な教育的支援を必要とする療養児童生徒」の状況整理一覧表(例) IV 特別支援教育便りの例 V 県内の主な相談機関</p>	<p>□特別支援教育 CO の年報活動表 □段階的な支援体制 【基礎基本編】 □特別支援教育とは □特別支援教育って何 □特別支援教育 CO に指名されたけれど、まず何をすればいいの？ 【組織づくり】 □実態把握 ・実態把握ってどうやるの □校内委員会 ・校内委員会って何をやるの？ □ケース会議 ・ケース会議って何をやるの？ ・ケース会議ってどう進めればいいの？ □地区 CO 会議 ・地区 CO 会議って何をやるの？ ・リーダーCO って何？ □地区 CO 会議における事例検討会の進め方ってどんな方法があるの？ ・エリア会議って何をやるの？ 【連携編】 □特別支援学校との連携 ・特別支援学校のセンター機能とはどんなこと？ ・特別支援学校は、どのようにセンター機能を発揮しているの？ ・特別支援学校の巡回相談を受けるときにはどうすればいいの？ ・居住地域交流を依頼されたら、どのように進めたいの？ □関係機関との連携 ・関係機関との連携をとりたときに気をつけることや準備することは何？ □特別支援教育 CO 業務 ・幼稚園、保育所編 ・小学校編 ・中学校編 ・高等学校編 ・管理職等編 ・普通教育編 □保護者との連携 ・保護者からの相談対応に当たって留意することは？ □学校間の連携 ・「引継ぎ」はどのように行うの？ ・就学・進学に向けてどのような支援が必 要なの？ 【実践編】 □子供の行動履歴 □コミュニケーション編 □支援体制づくり編 □学習編 □障害障害教育・障害者教育・発達教育編 □個人情報管理編 【付録資料】 □関係機関一覧 □参考文献等 □巡回相談依頼文書様式</p>	<p>【校内学びの支援委員会とは】 □校内学びの支援委員会の役割 □校内支援について □地域学習支援について 【特別支援教育 CO とは】 □特別支援教育 CO の役割 □業務の推進スケジュール(例) □特別支援教育 CO の研修 【校内支援の実態】 □校内支援を実施するまで □校内支援の実態 □個別の教育計画と個別の指導計画 □ケース検討会議について □実践例 □保護者や関係機関との連携 □特別支援教育の理解啓発について □校内研修の実態 【地域学習の推進】 □地域学習の推進 □地域学習施設の連携 □地域学習の実態 □地域学習で留意すること 【資料】 □通知文等</p>	<p>【基礎編】 □特別支援教育とは □特別支援教育を巡る近年の動き □チームとしての学校全体で行う特別な支援 □特別支援教育コーディネーターとは 【実践編】 □年報計画の作成 □実態把握 □校内委員会 □ケース会議 □「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」 □相談窓口と連携 【資料編】 □特科のお仕事 年間計画 □保護者や関係機関との連携 □特科のお仕事 チェックリスト □児童等に関するチェックリスト □実態把握シート □個別の教育支援計画(例) □個別の指導計画(例) □ケース会議 ワークシート □支援マップ □県内相談機関 □用語説明 □引用・参考文献</p>	<p>【基礎編】 □特別支援教育 CO とは □小学校 ・中学校 ・高等学校 □児童生徒の実態把握 □保護者との連携 □支援会議の開催方 □個別の指導計画 □個別の教育支援計画 □校内支援体制の構築 □学校外の関係機関との連携 □校内研修の実態 □研修と引き継ぎ □職種間、卒業後の移行支援 【実践編】(Q&Aで説明) □担任と共に歩み、「気付き」を促す □「気付き」を活用し、担任を支える □校内の多様なニーズの整理 □校内支援体制の組み方 □特別支援教育支援員との連携 □個別の指導計画(例) □委員会や支援会議を開く時間・まとめ方 □保護者との教育相談を進めるには □特別支援学校の教育相談を依頼するには □連絡指導教室の利用 □医療機関との連携 □福祉機関との連携 □幼稚園・保育所から小学校への移行支援 □小学校から中学校への移行支援 □中学校卒業後の進路選択 □中学校から高等学校への移行支援 □高等学校から就労・進学への移行支援 【ステップアップ編】 □就学相談のポイント □保護者・地域への理解・啓発 □生徒指導、不登校支援等との連携 □支援情報の管理と活用 □地域の特別支援教育コーディネーター等連絡会の充実 □授業のユニバーサルデザイン化 【特別支援学校のセンターとしての役割】 □幼保小中高との連携の在り方 □センター的機能の計画的な推進 □特別支援学校間の連携による支援 【資料編】</p>	<p>【表紙裏】 □特科 2年間の仕事(例) 【総論】 □特別支援教育とは □チームとして学校全体で行う特別な支援 □学校内で教育支援体制の構築・運営 □特科の役割と求められる資質 【学校内の役割】 □学校内の関係者との連携調整 □校内委員会の役割 □各学級担任への支援 □通級指導教室との連携 □交流及び共同学習 □小規模・保育園(例)、小学校、中学校、高等学校間の引継ぎ 【外部との連携】 □教育関係機関との連携 □その他の関係機関との連携 【保護者相談窓口】 □保護者との信頼関係作り □相談者としての心構え □適切な情報提供 □教育支援体制についての地域・保護者等への周知 【資料編】 □記入例 □同意書等の様式記入例 □中高連携シート □特別支援学校のセンター機能の発揮に係る資料 ・基本方針 ・指定地域 ・申請書記入例 □参考となる資料等一覧 □引用・参考文献</p>	<p>I 特別支援教育コーディネーターの役割 II 特別支援教育コーディネーターの具体的な業務 （1）校内の連絡の推進 1 児童生徒の実態把握 2 校内委員会の開催 3 保護者との連携 4 ケース会議の開催 5 研修の実態 6 個別の教育支援計画 7 個別の指導計画 8 校内支援体制の構築 9 評価と校内での引継ぎ 10 中学校卒業後に向けた連絡指導 11 通常の学級担任と通級による指導担当教員や支援員等との連携 （2）関係機関との連携の推進 1 保護者の気持ち理解、障害受容 2 保護者とのかわり方 3 カウンセリングに必要な基本的な力 4 情報提供 V 関係機関と連絡調整する力 1 関係機関との連携 2 関係機関の選定 3 障害福祉サービスについて 4 補装具費・日常生活用具の給付について 5 各種障害手帳について 6 年金・手当等について</p>	<p>【全県共通】 □特別支援教育 CO の役割 □校内委員会の役割 □個別の教育支援計画 □引用・参考文献 □保護者との連携 □特別支援学校間の連携による支援 【8 割程度共通】 □特別支援教育とは □特別な支援が必要な子どもの実態把握 □業務の推進スケジュール(例) □校内研修の実態 □ケース会議 □評価と引き継ぎ 【参考となる取組】 □特科のお仕事 チェックリスト □インクルーシブ教育システム推進のために～多様性に対応した学校づくり～ □相談者としての心構え教育相談の進め方留意点 □中高連携シート □スクールカウンセラー(SC)・スクールソーシャルワーカー(SSW)との連携</p>	

R5 調査研究 経験年数別アンケート結果 考察

未経験(見込) (130名)		1年 (50名)		2年 (74名)		3年から7年 (177名)		8年~12年 (39名)		13年~16年 (13名)		全体		
No	項目	回答率%	No	項目	回答率%	No	項目	回答率%	No	項目	回答率%	No	項目	回答率%
1	専門性・専門知識不足	65% (84)	1	専門性・専門知識不足	66% (33)	1	専門性・専門知識不足	56.8% (42)	1	通常学級での特別支援教育に対する意識向上	51.2%2	1	特別支援教育コーディネーターと担任の兼務による時間	46% (6)
2	通常学級の児童生徒の実態把握	36% (47)	2	通常学級での特別支援教育に対する意識向上	38% (19)	2	特別支援教育コーディネーターと担任の兼務による時間の捻出	47.3% (35)	2	支援の継続性	41%15	2	支援の継続性	38.4% (5)
3	通常学級での特別支援教育に対する意識向上	35% (46)	3	特別支援教育コーディネーターと担任の兼務による時間の捻出	34% (17)	3	支援の継続性	36.5% (27)	3	通常学級での特別支援教育に対する意識向上	36.7% (65)	3	通常学級での特別支援教育に対する意識向上	23% (3)
4	校内での位置づけが不明確	31% (40)	4	通常学級の児童生徒の実態把握	32% (16)	4	通常学級での特別支援教育に対する意識向上	32.4% (24)	4	通常学級の児童生徒の実態把握	35.5% (63)	4	特別支援教育コーディネーターと担任の兼務による時間	33.3%1
5	問題が起きたときの連携体制	25% (32)	5	支援の継続性	28% (14)	4	通常学級の児童生徒の実態把握	32.4% (24)	5	支援の継続性	33.9% (60)	5	校内での位置づけが不明確	25.6%1
6	支援の継続性	24% (31)	6	保護者の、特別支援教育コーディネーター業務の理解が不足	22% (11)	5	校内での位置づけが不明確	29.7% (22)	6	就学転学に係る相談	24.3% (43)	6	問題が起きたときの連携体制	23%9
7	就学転学に係る相談	21% (27)	7	校内での位置づけが不明確	20% (10)	5	就学転学に係る相談	29.7% (22)	6	多くの相談件数	24.3% (43)	7	多くの相談件数	20%8
7	保護者の、特別支援教育コーディネーター業務の理解が不足	21% (27)	7	就学転学に係る相談	20% (10)	6	問題が起きたときの連携体制	24.3% (18)	7	校内での位置づけが不明確	21.5% (38)	8	保護者の、特別支援教育コーディネーター業務の理解が不足	15.3%6
8	担任との連携	17% (22)	7	問題が起きたときの連携体制	20% (10)	7	保護者の、特別支援教育コーディネーター業務の理解が不足	23% (17)	8	問題が起きたときの連携体制	20.3% (36)	8	特別支援学校のセンター的機能の積極的な活用	15.3%6
9	特別支援学校のセンター的機能の積極的な活用	16% (21)	7	多くの相談件数	20% (10)	8	多くの相談件数	17.6% (13)	8	教育委員会や学校によって手続きの不統一	20.3% (36)	9	就学転学に係る相談	12.8%5
#	多くの相談件数	14% (18)	8	教育委員会や学校によって手続きの不統一	16% (8)	9	担任との連携	14.9% (11)	9	保護者の、特別支援教育コーディネーター業務の理解が不足	16.9% (30)	9	教育委員会や学校によって手続きの不統一	12.8%5
#	教育委員会や学校によって手続きの不統一	14% (18)	9	担任との連携	14% (7)	9	特別支援学校のセンター的機能の積極的な活用	14.9% (11)	#	担任との連携	14.7% (26)	#	高校通級指導教室の特別支援教育コーディネーターの外部支援体制の構築	10.2%4
#	管理職との連携	9% (12)	#	特別支援学校のセンター的機能の積極的な活用	10% (5)	#	管理職との連携	12.2% (9)	#	特別支援学校のセンター的機能の積極的な活用	9% (16)	#	担任との連携	10.2%4
#	高校通級指導教室の特別支援教育コーディネーターの外部支援体制の構築	2% (3)	#	管理職との連携	10% (5)	#	教育委員会や学校によって手続きの不統一	2.7% (2)	#	管理職との連携	9% (16)	#	管理職との連携	2.56%1
#	特別支援教育コーディネーターと担任の兼務による時間の捻出	0	#	高校通級指導教室の特別支援教育コーディネーターの外部支援体制の構築	8% (4)	#	高校通級指導教室の特別支援教育コーディネーターの外部支援体制の構築	2.7% (2)	#	高校通級指導教室の特別支援教育コーディネーターの外部支援体制の構築	4.5% (8)	#	通常学級の児童生徒の実態把握	0

特別支援教育コーディネーターの活動として知りたいこと

<p>どんな役割、活動、業務があるのか具体的にどのように活動したら良いか。活動の手順などを知りたい。×8</p> <p>連携をどのように取っていけばよいのか、保護者への周知の仕方、専門的知識の不足、保護者への伝え方</p> <p>位置付けが曖昧であり、どのように動いて良いかわからないです。校内における明確な立ち位置を知りたいです。</p> <p>児童支援。保護者対応。就学支援。保護者との面談には、どの程度関わるべきか。(頻度や程度)支援が必要な生徒の保護者の理解が得られないときの対応方法に以前より迷っています。</p> <p>高校進学時における進路の選択肢には具体的にどんなものがあるのか。</p> <p>特別支援学校との連携 救地内分校との連携</p> <p>学習形態の変更を考える際の基準や考え方</p> <p>どの機関と連携すればよいのか。どこまで合理的配慮をすればよいのか。教職員の特別支援教育に関する理解をどのように統一させるのか。</p>	<p>役割について一から知りたい</p> <p>外部の専門的な先生と連携したいと考えているが、どのように進めたらよいかわからない。</p> <p>担任、保護者との円滑な連携について</p> <p>よりよい巡回相談のあり方</p> <p>高校通級設置校での校内の連携について、詳しく情報交換をしたいです。</p> <p>今年度から特別支援コーディネーターとなり前任の方が移動されてしまったため、何をすればよいのか具体的にはわかっていなくても不安です。支援が必要な児童の実態把握を行なったあと、どのような流れで支援の方向性や保護者や学校、外部との連携を行っていけば良いか教えていただきたいです。</p>	<p>各校ではどのような位置付けなのか気になっています。学校によっては教育相談主任の方が幅広く動いていることもあるので...</p> <p>校内就学支援委員会でどのようなことをどの程度協議し、決定したら良いか知りたい</p> <p>発達障害への理解や支援のあり方は周知され始めています。しかし、愛着障害に関する教員の理解及び接し方の研修等がないと感じます。現場では愛着に問題を抱える子どもも多く、発達障害と同じ対応ではうまくいかないことも多いです。</p> <p>本校は担任以外で活動することかできて、非常にありがたいですが、他校では担任兼任で尽力されている方もいると伺っております。担任兼任の方がどれくらいの割合でいるのか知りたいです。</p> <p>学校内で組織的に生徒の情報共有や支援の体制について</p> <p>活動の実践例をしりたいです</p> <p>高校との連携について課題となっている。</p>	<p>通級の判断をする基準がわかりにくい。特に学習障害は判別ができない。境界域との差もわかりにくいこと。</p> <p>外部との連携を強化していくために大切なこと。</p> <p>保護者が納得のいく説明 話し方の技術</p> <p>通常学級で困っている児童に対する相談を受けた時に対応についてのアドバイスをする方法。対応策など</p> <p>業務内容</p> <p>特別支援学校の高等部ですが、スクールカウンセラーを配置してほしいのですが、どうしたらよいでしょうか。</p> <p>センター的機能に関する職員の加配はいつまで続けられるのか</p> <p>各校の特別支援教育コーディネーターはどのような取り組みをしているのか。</p>	<p>高校と校内に設置された分校との連携のあり方</p> <p>WISK,WAISを無料で取れるようにしてほしい。</p> <p>専門研修</p> <p>他職種連携のあり方</p> <p>校内職員への研修資料等</p> <p>特別支援学校のコーディネーターの高校通級への関わり方</p> <p>高校通級に特別支援学校のセンター的機能がどこまで関わるか。</p> <p>生徒指導、教育相談との連携で相談内容によって、どの部署が窓口になるか迷うこと</p>	<p>検査について依頼されることがあるが、各学校でどのように扱っているか?</p> <p>連携できる医療機関、利用しやすい外部相談窓口など保護者に案内できるものが知りたい</p> <p>他機関との連携が必要な時の場の設定の方法。本校から離れた地域から来る人への支援(福祉サービス等)について。</p>
--	---	--	--	--	--

特別支援学級・学校に進んだ場合の進学・就職について

他校のコーディネーター業務をどうやりくりしているのかを知りたいです。

ケース会議等を実施する際の校内体制の整え方や教職員の特別支援・教育相談に対する意識向上の方法

どこまで通常学級の授業に入り込んでいいのか知りたいです。

特別支援教育コーディネーターを務めるのは今年度が初めてなので、あらゆることについてよく理解できていません。基礎的なことから発展的なことまで、様々な活動について知りたいです。

校内で日常的にできる支援。（特別なことではなく、普段の中でできることのヒントなど）

県内他校の外部支援や内部支援の具体的な実践事例、巡回指導のより良い適切な方法について知りたいです。

1.各学校の予算の使い道を教えてください。他校はキャリアサポの予算で何を購入していますか？キャリアサポの予算が、学校全体のものを購入することに使用されていますか？陶芸を今行おうにあたり、そんなものより、学校全体で使用するものを購入すべきという意見がだされました。そして、手轆轤と粘土板は越生高校から借りています。キャリアサポートの予算のつかいみちがなかなかスムーズに行われません。学校全体に還元できるものを購入すべきだと言われます。そこで、ぜひ、購入品を検討し教えてくださいといっても何もでてこない状況が続いています。2.キャリアサポの加配についてですが、私は3単位分を受け持っていますが、自習監督、救急搬送等といった要員になっています。特に自習監督ですが、4カ月で10回も行きました。この状況だと、1年間で30回以上は行くことになります。このような、授業の受け持ち時間はなしにさせていただきたいです。自習監督等や生徒対応等で本来のキャリアサポの仕事に割く時間がけずられています。そのため、週末出勤をして補填しています。このような状況をなくすために、他校の状況も調査していただいて、特教課から自習監督等の配慮といった通達をしていただき、改善してほしいと思います。校長にはこの旨話しましたが、いまだ状況は変わっていません。3.特別支援学校のセンター的機能についてですが、当初立ち上げのときは入間わかき特別支援学校に協力していただいていたようです。最近になり地域連携もあり毛呂山特別支援学校に協力していただくようになり、入間わかき特別支援学校にも今までの流れを知っているので協力をお願いしたところ、毛呂山特別支援学校のお立場もあるのでこれからは毛呂山特別支援学校のみで行って欲しいとのご意見がだされました。複数の特別支援学校からのサポートは受けずらいみたいです。センター的指導とはやはり1高校1特別支援学校という体制なのではないかと1と2と3で記載した内容の個人が特定され

コンサルテーションの評価をどのように行っているのか。

担任や授業数が多いため通常学級の支援が必要な生徒を見に行く時間が取れない。どうやって時間を確保しているのか。

巡回相談と就学相談と特別支援学校支援籍の住み分け

高等学校でシステムとして機能させるための方法

摂食障害の生徒の支援、医療機関との繋がり方

各学校ごとの取り組みがあると思うが、特別支援教育に対して未経験の方が担うこともあり、いついつ何をしていくというスケジュールや行程表を年度初めに提示してもらいたい。

常に管理職と連携を取りながら業務をしています。特別支援教育コーディネーターとして、保護者の方へはどこまでのことをお話したらよいか、お話してもよいのかわかりません。支援学級の児童に対しては保護者と常に顔を合わせているので話しやすいですが、通常の児童の親から相談があった際の対応について知りたいです。（今はまだ私が相談に入ったことはありません。）

他校の状況について知りたい

コロナ禍で配慮を要する児童や保護者が支援に繋がれていないことがあります。皆さんどのように活動をおこなっていらっしゃるのか、他校のコーディネーターの先生方からも学ばせていただける場がほしいです。

合理的配慮のあり方

通常業務で忙しい上での業務なので、現場に人を増やして欲しい。

様々な業務がある中、適切な対応ができていないコーディネーターさんの実践を知りたい。

地域の連絡調整できる場を調べたい

どんな活動をしているか具体的に知りたいです。また通常学級から個別支援を行う場合のベストな方法

具体的な支援方法 手立をたくさん知りたいです。読み書き計算の苦手な子、手先の不器用な子等、学級内で過ごす境界域の子供達のためにどんな支援ができるか、具体的な手立てをたくさん、知ってきたいです。校内就学支援委員会の持ち方の上について（本校は、委員会に上がってくる児童数も多く、その報告だけで時間がかかってしまうため、どのような委員会体制をとることがよいのか知りたい）、外部特に医療機関との連携の仕方（現在は、情報

通常学級で取り組んでいる支援方法などが知りたい。

他校の活動の状況（共有の場がほしい）

担任が負担にならないような校内支援委員会の進め方や実態把握や対応方法の検討について。

ケース会議を開く手順や資料、学区によって支援先となる機関、担当教諭について、業務内容について。

コーディネーター同士が繋がれる場が欲しいです。

特別支援学校との連携

校長先生がこの仕事についてあまりしらないと、初任者に任せたりする学校があり、大変そうです。管理職にこそ、よく理解してもらうには。

がある。不登校、家庭の環境や愛着関係など

個々の生徒を見極める力を付けたい。

特別支援学校のセンター的機能はどのように利用すれば良いのか。前任校の市町村では、こういう風に利用できず的な文書が来ていたので利用したことがある。草加市にも、そういうのがあ

医療機関の情報や中学・高校など進学に関する情報

いわゆる「気になる子」を通常学級に見に行った際の見立て方や自分の支援の仕方、その子に必要な支援方法

他校の校内委員会の実践、実際のあり方

他のコーディネーターの方々の仕事内容・業務内容等

専門知識をもっとつけたい。

医療との連携について。医療側からの情報提供。

学校内の支援体制が整っていないので、何から始めていけばよいのかを知りたいです。

他校の巡回相談、オンラインの活用等

高校通級の仕りか、互恵づけがはっきりしない状態で、現場でもさまざまな問題点が起きている。高校通級にきたして入学してきた生徒に、中学校での特別支援との違いがなかなか理解され

特別支援教育が必要でない場合、どのような対応しているのか。

担任していて時間が足りないため、両立例を知りたいです。

実態のアセスメントについて

現状ではとくにない。
他校の活動内容について。コーディネーター同士の横の連携がないため、悩んだときに相談する相手を探すのが難しい。

医療機関との積極的な連携方法